

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 11 日現在

機関番号：11601

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K02521

研究課題名（和文）包括的・連続的なキャリア形成支援の試み デンマークの改革に学ぶー

研究課題名（英文）A Study on Inclusive and Continuous Support for Career Formation -Learning from Danish Reformation

研究代表者

青木 真理（AOKI, MARI）

福島大学・人間発達文化学類附属学校臨床支援センター・教授

研究者番号：50263877

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：4年間の研究期間のうち3年はコロナウィルス感染拡大により、計画通りには研究が進まなかった。国内外の訪問調査ができないので「人の育ちと人育ての会」という研究会を組織し、教育、心理、福祉等様々な立場の人たちと、切れ目のないキャリア支援について、福島においてすべての人がそのコンピテンスを生かして社会に参加することを支援する仕組みについて、議論を深めた。2023年によりデンマークを訪問することができ、新しい若者サポートの仕組みKUI、新しい橋渡し教育であるFGU、障害をもつ子どもの親の会などの調査を行った。これらの研究成果を反映したデンマークの教育についての著作を刊行すべく準備を進めている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究成果に関して強調したいことは、デンマークのキャリア形成支援の仕組みの改革の基底には、<すべての人に教育を>という「サラマンカ宣言」の具体化という強い願いがあることを見出したという点である。この願いの実現のために、多様な個別ニーズに合わせた教育・支援を実現する努力が粘り強く続けられてきたのである。また、デンマークの行政の基本には子ども・市民を中心に置くという考え方がある。これらのデンマークでの努力・考え方を紹介し、日本で個別ニーズに応じた教育・支援を実現すること、受益者・利用者を中心に据えた仕組みづくりを進めることの重要性を指摘した点において、本研究は社会的意義が大きい。

研究成果の概要（英文）：We could not conduct research as we wished to because of Covid-19. It was difficult to visit Denmark to conduct research, so I organized a workshop where some experts and practitioners out of various fields get together to discuss how we could realize continuous carrier support. In 2023 we could visit Denmark to research the new support system for youth "KUI", a new bridging education "FGU", an organization of parents who have children with handicap and so on. Now we are preparing for our new book about Danish education which will be published by the end of fiscal2024.f

研究分野：臨床心理学

キーワード：切れ目のない支援 キャリア形成支援 発達障害者の就労支援 特別支援教育

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

#### (1) 研究開始以前の研究

研究代表者らは 2005 年からデンマークを訪問し、教育および若者支援策についての聞き取り調査を行ってきた。2015 年～2017 年の 3 年間、「発達障害者の就労支援—デンマークの自閉症スペクトラム者への IT 教育の試みに学ぶ」という研究課題のもとに基盤研究(c)一般の科学研究助成費を得て研究した。

#### (2) その研究で明らかになったこと

##### (i) STU (特別なニーズをもつ青年への教育)における ASD 青年への IT 教育

デンマークの AspIT (アスピット) と Specialisterne (スペシャリスターネ) という二つの STU を調査し、成功の要因を明らかにした。そこから、ASD 青年のキャリア選択と社会参加を実現するためには、ASD 特性を「強み」として活かすこと、社会参加のためのスキルを無理のない範囲で身に付けることを目指すという 2 本立ての教育が重要な要因であるということを見出した。

##### (ii) 発達障害など特別なニーズを持つ青年の就労支援における重要な要因について

障害特性に配慮すること、当事者の発達特性を含めた内的リソースを強みとして活かすこと、そして教育・訓練の結果生み出される生産物(技術、製品)が地域・社会・消費者に貢献することである。当事者、教育機関、社会の 3 者にとっての利益を生み出すという視点に注目すべきである。

##### (iii) 『転換期と向き合うデンマークの教育』著書の出版

2016 年度までの研究成果をまとめ、谷雅泰・青木真理編著『転換期と向き合うデンマークの教育』を 2017 年 8 月に出版した。

##### (iv) 障害を持つ青年の社会参加を実現するための手立てを考える

2017 年 11 月 24 日に「みんなが活躍できる社会をどう構想するか デンマークに学ぶ」と題するシンポジウムを福島大学で開催した。その中で、デンマークでは教育と雇用にスムーズに参加できない青年への支援の新しい枠組みとして、Youth Unit が案出され、その中に既存の様々な支援リソースが組み込まれて統合される予定であることが明らかとなった。

### 2. 研究の目的

これらの研究成果を受けて本研究では、デンマークの人材養成に学び、すべての人が社会に参加できることを目指し、日本の社会で妊娠期から青年期後期までという長いスパンでの切れ目のないキャリア形成支援モデルを探究することとした。

我が国におけるキャリア形成支援は、「職業指導」から「進路指導」へと変遷し、近年「キャリア教育」という概念が提案された。進路指導は「さらにその後の生活によりよく適応し、進歩する能力を伸長する」(『進路指導の手引—中学校学級担任編(改訂版)』昭和 58 年)と説明され、生涯にわたって「適応」し「進歩する」力を養っておくことを念頭においている。「キャリア教育」については、「若者の社会的・職業的自立」「学校から社会・職業への移行」をめぐる課題の解決のために「人々が人生において、各々の希望やライフステージに応じて様々な学びの場を選択」し、「職業生活の中で力を存分に発揮できるようにすることが重要」であり、「学業生活と職業生活を交互にまたは同時に営むことができる生涯学習社会を、真に構築しなければならない」とされる(「今後のキャリア教育・職業教育の在り方について(2010 年 1 月中央審議会答申)」。つまり、キャリア教育は進路指導の理念を引き継ぎつつ、幼児期教育から高等教育まで体系的に進められること、教科学習及び生活指導と将来とのつながりの見通しを持たせることを基本的方針としている。しかし生涯にわたるキャリア形成を支援するには、我が国の縦割り行政のもとでは一貫して生涯にわたって支援を行うことは難しい。各段階の支援体制はあるがそれらを切れ目なく接続させる仕組みが弱い。換言すれば市民中心の行政の仕組みがないのである。国民がそのリソースを最大に活かして社会参加をし自己実現を目指すためには、妊娠期から青年期後期まで長期のスパンでの支援体制をつくる必要があると考え、それを申請者らは「包括的・連続的なキャリア形成支援」体制と呼ぶ。そしてその体制づくりのための調査と、それをもとにした介入研究を行い、最終的に支援体制のモデル提示を行いたい。デンマークで発達障害者を就労につなげる教育に焦点を合わせ、その実態を詳細に調査すること、そして日本の発達障害者就労支援のモデルに活かす可能性を検討することにした。

### 3. 研究の方法

#### (1) デンマークの調査

若者の再適応支援を行う新しい枠組み KUI の調査  
特別支援教育と障害者の就労支援の調査

#### (2) 協力自治体 A 市における介入研究

キャリア形成支援のための社会資源の調査

## A市の社会資源を活用したキャリア形成支援モデルとキャリア形成支援「介入プログラム」の開発

福島県A市において一定期間(10か月)、上述のプログラムを用いた実践的介入を行い、面接法と質問紙法により教育行政・福祉行政職員、被支援者を対象に、介入前後における効果測定を行う

### 4. 研究成果

研究期間の1年目の始まりの時期から、Covid-19の感染拡大により、計画した研究はほとんど行えなくなった。デンマークおよび協力自治体での調査が行えなかったため、それに代わるものとして「人の育ちと人育ての会」という研究会を組織し、多様な立場の会員によりキャリア形成支援と人材育成について議論をすることとした。研究機関を1年延長した4年目によろやくデンマークを訪れて調査を行うことができた。

#### (1) 人の育ちと人育ての会

2019年度末に発足した「人の育ちと人育てについて考える会」(切れ目のないキャリア形成支援のモデルを探究する会)は、本研究組織のメンバーを初めとして、県内の様々な立場の専門家、研究者、実践者を集めて、課題の共有と議論を行った。本研究代表の青木真理(臨床心理学)が主催し特別支援教育・保育学・子育て支援・教育学の専門家、通信制高等学校教員、障害をもつ子どもの保護者、ひきこもり支援者、スクールカウンセラーなどが集った。発足から2024年3月までの4年間に25回開催した。検討したテーマは、デンマークのKUIの取り組み、福島県国見町の子育て支援、いわき市の個別支援計画、通信制高校の生徒が抱える課題、障害をもつ子どもの保護者の提言、特別支援学校高等部修了者のさらなる学びの保障、公民館活動、福島県の乳幼児の発達支援、発達障害者の就労移行支援、デンマークの発達障害者就労支援、切れ目のない支援などであった。また後述するデンマークのガイダンスの専門家のオンライン講演会の報告、4年目に行うことのできたデンマークでの調査の報告も行った。

この会の議論のなかで、障害をもつ人の社会参加支援への関心が大きくなっていき、そのことが研究期間4年目に行ったデンマークでの調査およびデンマークの教育についての著作のテーマに繋がった。

#### (2) デンマークの若者支援の専門家のオンライン講演会

Covid-19の拡大のため訪問調査ができないので、その代わりに、デンマークの専門家によるオンラインの講演会を2021年と2022年の2回、開催した。旧知のカーステン・ポトカー氏にデンマークの若者支援の現状と課題についての話を聞いた。

#### (3) デンマークでの調査

4年目にしてよろやくデンマークを訪問することができ、若者支援の新しい仕組みKUI、FGUという新しい仕組み(準備基礎教育)、障害者の親の会などを視察した。

#### (4) キャリア形成支援体制の提案

Covid-19感染拡大のため、自治体におけるキャリア形成支援「介入プログラム」の実践的研究は行うことができなかった。その代わりとして、論文「切れ目のないキャリア形成支援についての一考察」を執筆し、キャリア形成支援体制の提案を行った。これはオンラインでアクセスできる福島大学学校臨床支援センター紀要に掲載された。また、上述の「人の育ちと人育ての会」でこの論文について報告し議論を深めた。

#### (5) 著書『個性に応じた学びの場 - デンマークの人づくり(仮題)』の刊行準備

本研究等にもとづき、著書を刊行することとした。刊行のための費用は、本研究の研究分担者谷雅泰が研究代表者を務める科研費から充て、加えて本研究代表者の青木が福島大学の学術出版助成を受ける。2024年度中に刊行される予定である。

#### (6) 今後の研究課題

##### デンマークでの今後の調査

研究代表者のデンマーク研究の発端は、デンマークのガイダンス制度についての関心であったが、研究を進めるなかで、ガイダンス制度整備の根幹に「サラマンカ宣言」の具現化という目標があることを知った。その観点においてデンマークは、すべての人の社会参加を実現するために、支援を必要とする対象者のグループ(ターゲットグループ)に注力している。今後は、発達障害のある人たちの教育・就労支援に引き続き調査を行うとともに、これまで調査対象としなかった虐待、非行・犯罪防止の分野も調査していきたい。また、デンマークでは子ども、若者のうつ病の発症の高さが近年問題視されていることも明らかになった。精神科医が少ない状況のなか、インターネットを活用しオンラインでの診療を進めること、ホームドクターをゲートキーパーとして活用することなどの計画が進められている。この精神医療についても調査を行う。

##### 発達障害者の充実した就労を実現するためのプロセスモデル

教育と福祉と産業の三者の有効な連携のもとに発達障害者の就労支援を行う重要性に着目し、日本国内の関連する機関・事業所の調査を行う。くわえて、発達障害のある人の教育カリキュラムを開発、提言したい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 青木真理	4. 巻 8
2. 論文標題 切れ目ないキャリア形成支援についての一考察	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 福島大学学校臨床支援センター紀要	6. 最初と最後の頁 11, 19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 柴田卓・柴田千賀子	4. 巻 59
2. 論文標題 自然を活かした保育活動を促す教材開発の試み 地域資源の活用とSTEAM教育に着目して	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 郡山女子大学紀要	6. 最初と最後の頁 199, 208
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 杉田政夫・伊藤孝子・青木真理	4. 巻 34（2）
2. 論文標題 ノルウェーにおける音楽療法士養成課程の教育とカリキュラム：ベルゲン大学とノルウェー国立音楽大学への訪問調査	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 福島大学地域創造	6. 最初と最後の頁 5, 16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 青木真理	4. 巻 6
2. 論文標題 スクールカウンセラー活動の基本についての私論	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 福島大学人間発達文化学類附属学校臨床支援センター紀要	6. 最初と最後の頁 1, 8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 芳賀孝美・青木真理	4. 巻 6
2. 論文標題 安心して子育てできる地域の支援体制について～保健福祉・教育・労働等の連携～	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 福島大学人間発達文化学類附属学校臨床支援センター紀要	6. 最初と最後の頁 17, 24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高野成一・青木真理	4. 巻 6
2. 論文標題 通信制高等学校における教育相談の取組み	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 福島大学人間発達文化学類附属学校臨床支援センター紀要	6. 最初と最後の頁 49, 58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永浦拓, 野村れいか, 青木真理, 青木紀久代, 法眼裕子, 川畑直人, 富永良喜, 小林哲郎	4. 巻 39 (6)
2. 論文標題 コロナ禍での心理的な困難 - 新型コロナは “こころ” にどんな影響を与えたか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本心理臨床学会「心理臨床学研究」	6. 最初と最後の頁 578, 593
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋純一, 谷雅泰, 青木真理	4. 巻 5
2. 論文標題 知的障害者に対する青年期教育の多様性 高等部本科から福祉型専攻科への教育課程の接続に関する議論 ...	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 福島大学人間発達文化学類附属学校臨床支援センター紀要	6. 最初と最後の頁 37, 44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 杉田政夫, 伊藤孝子, 青木真理	4. 巻 33(2)
2. 論文標題 ノルウェーにおけるコミュニティ音楽療法の実践 : 刑務所, 及び出所後の音楽活動	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 福島大学地域創造	6. 最初と最後の頁 5, 15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 菊地瑞穂, 青木真理	4. 巻 4
2. 論文標題 機能分析マニュアルの提案 : 小学校通常学級での活用に向けて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 福島大学人間発達文化学類附属学校臨床支援センター紀要	6. 最初と最後の頁 49, 56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木真理	4. 巻 33
2. 論文標題 大塚勇三の仕事 子どものための読書ガイドとしての大塚勇三	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 福島大学人間発達文化学類論集 (人文科学部門)	6. 最初と最後の頁 39, 47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 杉田政夫, 伊藤孝子, 青木真理	4. 巻 32 ( 2 )
2. 論文標題 ノルウェーにおけるコミュニティ音楽療法の今日的展開に関する研究—スティーゲへのインタビュー及び実践現場への訪問調査を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 福島大学地域創造	6. 最初と最後の頁 37-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青木真理	4. 巻 16
2. 論文標題 臨床心理学的支援を行うセラピストの態度について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 福島大学心理臨床	6. 最初と最後の頁 1, 7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤孝子, 柴田朋子, 杉田政夫	4. 巻 42
2. 論文標題 自閉症児Aの反復演奏に対する音楽療法士の捉え方の転換について—転機となった臨床即興プログラムの分析を通して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 名古屋芸術大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 29, 38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木真理	4. 巻 2
2. 論文標題 スクールカウンセラーガイドブック作成の試み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 福島大学人間発達文化学類附属学校臨床支援センター紀要	6. 最初と最後の頁 113, 120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木真理, 谷雅泰	4. 巻 2
2. 論文標題 デンマークの若者支援の新しい制度 KUIについて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 福島大学人間発達文化学類附属学校臨床支援センター紀要	6. 最初と最後の頁 45, 54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計17件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Chikako Shibata, Tomohiko Muratsubaki, Suguru Shibata, Emiko Aizawa, Satoshi Watanabe, Motoyori Kanazawa, Shin Fukudo
2. 発表標題 A RANDOMIZED CONTROLLED TRIAL EVALUATING THE EFFECT OF ENVIRONMENTAL RICHNESS ON GASTROINTESTINAL SYMPTOMS, SALIVARY CORTISOL, AND GUT MICROBIOTA IN EARLY CHILDHOOD
3. 学会等名 Pediatric Gastroenterology & Developmental Biology (PGDB) Section Distinguished Abstract Plenary: Digestive Disease Week 2024(DDW2024) (優秀アブストラクト口頭発表)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Suguru Shibata, Chikako Shibata
2. 発表標題 A Study on the Effectiveness of Natural Teaching Materials Created From a STEAM Perspective and the Awareness of Childcare Workers: Based on a questionnaire survey after childcare worker training
3. 学会等名 10th International Outdoor Education Research Conference, Tokyo, Japan. (一般演題ポスター発表)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 原義彦
2. 発表標題 A study on the transformation of school value in Danish folk high school between 2017 and 2024
3. 学会等名 The Nordic Educational Research Association (NERA) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 杉田政夫
2. 発表標題 音楽教育哲学は新自由主義にどう対抗するのか 社会正義の理論的展開
3. 学会等名 日本音楽教育学会第54回大会
4. 発表年 2023年



1. 発表者名 杉田政夫
2. 発表標題 ノルウェーのコミュニティ音楽療法 ー理論・実践・教育
3. 学会等名 日本音楽教育学会第54回大会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 柴田卓・柴田千賀子
2. 発表標題 STEAM教育の視点からみた自然環境下における教材と保育活動の可能性-保育実践および保育者研修からの一考察-
3. 学会等名 日本自然保育学会第8回大会（一般演題口頭発表）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 柴田千賀子・村椿智彦・相澤恵美子・渡辺論史・柴田 卓・金澤 素・福土 審
2. 発表標題 環境の豊かさが幼児期の消化器症状に及ぼす影響に関する無作為化比較試験
3. 学会等名 第64回日本心身医学会総会ならびに学術講演会（一般演題ポスター発表）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 伊藤孝子・渡邊恵里・池田憲治・野路恵美・杉田政夫
2. 発表標題 大会企画シンポジウム「コミュニティでの音楽療法を考える」
3. 学会等名 第22回日本音楽療法学会学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 柴田千賀子
2. 発表標題 子育て支援チームアプローチに関する研究 - フィンランドのオープンダイアログに焦点を当てて -
3. 学会等名 日本保育学会第75回大会, オンライン
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 柴田千賀子・渋谷 真樹・細辻恵子・児玉珠美
2. 発表標題 オラリティと子どもの世界
3. 学会等名 日本子ども社会学会第28回大会, オンライン(シンポジウム)(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 柴田千賀子
2. 発表標題 COVID-19対策と保育実践に関する一考察 - フィンランドとの比較の視座から -
3. 学会等名 日本保育学会第74回大会ポスター発表
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 柴田卓・柴田千賀子
2. 発表標題 デンマークの自然を活かした保育に関する研究 - 保育実践とナショナルカリキュラムからの考察 -
3. 学会等名 日本自然保育学会第6回大会口頭発表
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 青木真理・原真理子・伊藤孝子・杉田政夫
2. 発表標題 リンドグリーンお茶会 コロナ禍の中で生まれた多世代間・多文化間交流の実践
3. 学会等名 アートミーツケア学会2021年度大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 青木真理
2. 発表標題 支援活動委員会シンポジウム企画「コロナ禍での心理的な困難 新型コロナは“こころ”にどんな影響を与えたか-」において「コロナ禍 の中でのスクールカウンセリングー福島県の場合」
3. 学会等名 日本心理臨床学会第40回大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 青木真理・金成美恵・岸竜馬・有賀直美・安部郁子
2. 発表標題 自主シンポジウム「コロナウィルス感染拡大下でのスクールカウンセリング」
3. 学会等名 日本心理臨床学会第40回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 柴田千賀子
2. 発表標題 フィンランドにおける包括的子育て支援の発展の現状
3. 学会等名 日本保育学会第73回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Anne Soini・Petri Niemela・柴田千賀子.
2. 発表標題 フィンランドのCOVID-19感染拡大下における自然保育の取り組み
3. 学会等名 日本自然保育学会第5回大会（招待講演）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 笹野恵理子・杉田政夫・西島千尋他	4. 発行年 2024年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 368
3. 書名 『学校音楽文化論 一人・モノ・制度の諸相からコンテクストを探る』	

1. 著者名 青木真理	4. 発行年 2024年
2. 出版社 明治図書	5. 総ページ数 143
3. 書名 『スクールカウンセラーのための仕事術 はじめて学校で働くための手引き』	

1. 著者名 坂口緑・佐藤裕紀・原田亜紀子・原義彦・和気尚美	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミツイパブリッシング	5. 総ページ数 309
3. 書名 デンマーク式生涯学習社会の仕組み	

1. 著者名 ブリュンホルフ・スティーゲ、レイフ・エドヴァルド・オーロ、杉田政夫、伊藤孝子、青木真理、谷 雅泰、菅田文子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 風間書房	5. 総ページ数 506
3. 書名 コミュニティ音楽療法への招待	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	高橋 純一  (TAKAHASHI JUNICHI)  (10723538)	福島大学・人間発達文化学類・准教授   (11601)	
研究分担者	原 義彦  (HARA YOSHIHIKO)  (70284825)	秋田大学・教育学研究科・教授   (11401)	
研究分担者	杉田 政夫  (SUGITA MASAO)  (70320934)	福島大学・人間発達文化学類・教授   (11601)	
研究分担者	柴田 千賀子  (SHIBATA CHIKAKO)  (80639047)	仙台大学・体育学部・教授   (31301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------